

京都コースからの7がみ



2025 年 11 月発行
第 89 号

〒607-8218 京都市山科区勸修寺御所内町64-3
深草こどもの家 勸修寺園舎
TEL:075-641-8280 FAX:075-642-8588
メールアドレス: mc.kyoto@theia.ocn.ne.jp

訃報

岡山眞理子先生を偲んで



令和七年六月五日 岡山眞理子先生が、お病気のため、神さまの元へ旅立たれました。

岡山眞理子先生は、京都コース一期生としてモンテッソーリ教育を学ばれ、赤羽先生、板東先生と共に、京都コース、又、深草こどもの家の設立にも関わり、赤羽先生の右腕として、この三月まで京都コースの重要な役割を担われていらっしゃいました。その間にも、愛媛県のリザリオ学園長として二年間、たくさんの幼稚園の先生方、保護者の方々へのご指導をいただきました。

突然の訃報でしたが、急遽京都コース夏の講習会の中で「偲ぶ会」を開催することができました。お集まりいただきました皆さま、ありがとうございます。

京都コース委員長 根岸 美奈子

京都コース前委員長
宮津暁星幼稚園 園長 井 直子
モンテッソーリ教育に出会い、京都コースで学んだ日々は、岡山眞理子先生とのご縁につながりました。私にとって岡山先生は、幼児教育に携わるうえでの人生の道しるべであり、心の支えでもありました。そして今もなお、先生のお言葉が私を励まし、導き続けてくださっています。

先生が繰り返し伝えてくださったのは、「子どもの心に寄り添うこと」、そして「子どもの前では常に謙虚であること」。目の前の子どもと真摯に向き合うときに何よりも大切にすべき姿勢を、先生は言葉だけでなく、ご自身の生き方そのもので示してくださいました。

京都コースは、「子どもから学ぶことを大切にし、子どもに寄り添う先生を育てる」場であり、それはまさに岡山先生の思いが形になった学びの場です。子どもの言葉に耳を傾け、心の動きに寄り添い、必要なときにはそつと見守る。そのような保育者のあり方を、先生は時に優しく、時に厳しく、そして温かなまなざしと姿勢を通して、私たちに教えてくださいました。

また、先生は常に人間味あふれる存在でもありました。優しく包み込むような笑顔もあれば、時にきびしい眼差しで私たちを

律してくださることもありました。さらに、おちやめで愛らしい一面もあり、その全てが岡山先生の大きな魅力であったと思います。そのお姿は今も私の心に深く残り、生き続けています。

これからも、先生が示してくださった保育者としての道を忘れずに、子どもと共に歩む毎日を私らしく大切に重ねてまいりたいと思います。岡山先生、本当にありがとうございました。どうか安らかに眠りください。そしてこれからも変わらぬ優しい笑顔で、私たちを温かく見守り、導いてくださいますように。

京都コース卒業生
ロザリオ学園 海の星幼稚園 園長 上田 礼子

私がコースを卒業して数年後、岡山先生に定期的に園にお越しいただきご指導いただけることになり、当学園の学園長も務めていただきました。そこで私はいつものまにか解ったような気になっていたモンテッソーリ教育の実践が、いかに精神が伴っていないものだったのかを思い知ると共に、子どもの心に寄り添い、子どもから学ぶ喜びを教えてくださいました。まさしく第二の学びのチャンスでした。私は先生の唯一無二の感性と子どもへの深い愛情がこもっ

たお言葉を私共だけがお聞きするのはもったいないと、「本をだしてください」とお願いするようになり、ご病気が分かった時、決意してくださいました。闘病中でした。い時もあられたでしょうに、子どものことを話したすといつも生き生きとされていた先生。そして一年半かけてどこをめぐつても先生の声が聞こえてきそうな愛情に満ちた本、「子どもから学ぶ」が完成しました。晩年よく「私が一番したいことは、良い先生を育て、良い園を増やし、子どもが良い生活を送り幸せになることなの。」とおっしゃられていましたが、この本を手にした教師、保護者の方など、こどもと関わる全ての人を、これからも育て続けてくださることと思います。

今の時代、スピードや利便性ばかりが求められますが、そうしたものは相反するところに揺るぎない価値を置き、心を込めて、じっくり丁寧に生きなさい。と示してくださいました先生。すべてを包み込むような優しい笑顔。時に子どもの前に立つ自覚を教えてくださいました優しい笑顔。趣味の話や失敗談を話されながらフフツツと笑うチャイミングなお顔。聞かせていただいたフルートの音色や透き通る歌声……。忘れません。

先生が天に召されて数か月が経ちますが、私は今でも事あるごとに、この事を先生にお伝えしたいなあ。先生は何ておっしゃるだろう。と考えます。これからも私は「先生はどう思われますか」と問い続けながら過ごすことと思います。なので、どうぞ違った方向に行きそうになったら、謙虚でなく傲慢になつていたら叱ってください。「上田さん、それあかんわ」と。

どうぞこれからも導いてください。

京都コース十四期生 深草こどもの家旧職員

岡本（野間）久子

岡山先生との出会いは四十年前です。こどもの家で六年間、先生と子ども達とたいへん貴重な学び、恵みの時でした。退職後も、お電話、お手紙をくださったり、近くに来た時には寄つてくださったりしました。

そして、ここ十年程は参加されていたフルートのアンサンブルコンサートに呼んでいただいたりお出かけしたり、楽しい時を過ごさせていただきました。

御病氣になられても、治療の合間を縫うようにコースのお仕事、講演、本を出す準備など積極的に動かされていました。遠方の講演など、しんどくないですか？と伺うと、皆さんにお話して嬉しうのは嬉しいと答

えられました。

前から、いつかは行こうと話していた鹿児島への旅。以前こどもの家に勤めていた先生との再会も昨年六月に実現されました。先生はクリスマスチャンでいらっしやいましたが、お仕事など忙しくされていたので教会の活動があまりできなかったそうです。二〇二三年のクリスマスに久しぶりに教会のお台所に入って、お手伝いできて嬉しかったと：「当たり前のことがしたい。ゴミ出しすら楽しいの」と教会の人に話されたそうです。

楽しみにされていた本が出版され、お手紙とともに発送された頃、今年の二月、少し体調が悪くなっておられました。

「夢だけど一つやってみたいことがあるのよ」と話されたのが大文字山登りでした。こどもの家で毎年登っていた山登りです。四月下旬、緩和ケア病棟に入られました。大文字山がとてもよく見えるお部屋でした。子ども達と何回大文字山に登られましたか？とうかがい、二人で計算したら三十回位は登っておられる事になりました。「皆さんよくしてください。私は幸せ感謝しているのよ」といつも話しておられました。

先生の生きぬかれた人生、御一緒にでき、感謝でいっぱいです。

一九九三年度深草こどもの家卒園生

小椋（人見）百合子

眞理子先生は私にとつて初めての先生であり、今も変わらぬ優しさに満ちた姿が心に残っています。小さな私たちの目線に降りて、話したいことをしっかりと聞き取ってくれる先生でした。自分の気持ちを受け止めてもらえた安心感は、大人になった今も心に残っています。

卒園後も毎年年賀状をやり取りしました。美しい文字や旅の報告は、先生の人柄がにじんでおり、毎年の楽しみでした。先生のお宅でお鍋をご馳走になったこともあります。飾り切りのしいたけが入っていて、それ以来、家でも真似をしています。後日「デザートを出し忘れて落ち込んでいた」と届いたはがきも、先生らしいお茶目な思い出です。娘が生まれてからも、先生は私の家に遊びに来てくださいました。繊細な娘がすぐに懐いたことに私は驚きました。娘が先生の近くを通ろうとすると、先生が手でそっと通せんぼをして「あれ、通れないね」と遊んでくださいました。そのとき娘は家族にしか見せないような笑顔を見せて本当に楽しそうでした。また、おもちゃの取り合うお友達をじっと見つめる娘をみて先生は「娘さんが観察してるね」とおっしゃいました。子どもの心の動きを丁寧に見

つめる先生の姿に、深く胸を打たれました。

六月五日に先生の入院されているホスピスを訪れました。数時間前に先生は息を引き取られた後でした。ホスピスは緑に囲まれていて、窓からは子どもたちの家のみなで登った思い出の大文字山が見えていました。「おぶってくれたら登れる」と、お茶目にご家族に話しておられたと伺い、先生らしいなと笑ってしまいました。最後にお話できなかったのは本当に残念ですが、それでも、静かなお別れの時間を持てたことをありがたく思っています。眞理子先生の優しさとまなざしと、鈴のようにまあるい優しい声をずっと忘れません。

深草こどもの家卒園生保護者

バイオリニスト 吉村（潮見）裕子

眞理子先生との最後のお別れは、ご逝去の一週間前のことでした。先生が最も好きだった讃美歌「アヴェベルムコルプス」を、ヴァイオリン演奏でもう一度お聞きいただきたい、と願いつつお別れしたのが最後となりました。

私と息子は、二十数年前、深草こどもの家にご縁をいただきました。眞理子先生は、いつくしみ深い笑顔で、子供の心に寄り添ってくださいました。先生方の愛情に包まれ、親

子とも、心から満ち足りた幸せな時を過ごさせていただきました。子どもの家での思い出は生きる上で大きな力になっていますことに、今も感謝の思いでいっぱいです。

いつも凛とした、透明感をお持ちの眞理子先生から、私はいつか「教育」について学ばせていただきたい、と願いつつ、その気持ちを先生にお伝えしそびれておりました。今年初め、思いがけなく先生から御著書をお送りいただきました。その中には、試行錯誤しながら子どもと信頼関係を築いていくお姿、私のお聞きしたことがすべて書かれていました。そのお礼のお電話で、初めて先生のご病状を知りました。私は、もっと早く先生にお会いしに行かなかったことを悔いました。

緩和ケア病棟には楽器を持つて度々伺い、色々なお話をさせていただきました。モンテソーリ教育と初めて出会われた時のことは、まるで昨日のように、生き生きと弾んだお声でお話くださいました。病室で御親戚の方々と偶然お会いし、皆さんで讃美歌を歌っていたいただいた時間も、かけがえない思い出となりました。「教育で、最も大切なことはなんですか」との問いに「指導者の持つ空気が、何より大切です」と、かみしめるようにお答えくださったお言葉は、私の宝物です。子どもの指導に迷ったとき、先生ならど

うお考えになるだろう、と考えるようになりました。珠玉のご著書が多くの方々希望の種子となり、未来に花を咲かせ続けますことを、心よりお祈り申し上げます。

叔母 岡山眞理子のこと

福岡 里佳

十年前、眞理ちゃんは、仕事でたまたま私のいる松山によく来てるなあとぐらいにしか思っていませんでした。しかし、松山に第二の拠点として家を借りて、出張の度そこで過ごすようになりました。私は結婚以来親戚が近くにいることがなく、本当にうれしくて、家に遊びに行ったり、ご飯と一緒に食べたたり、悩み事を相談したり、姉のような、母のような、いつも寄り添ってくれている存在になっていきました。三年間の二拠点生活を終え、松山を引き上げる日、「実はロザリオ学園の学園長をしてました」と言われ、すごく驚きました。回転ずしでシステムに戸惑い、「落ち着いて食べられへんなあ」と目を丸くしてたこと、また、購入したほうきを担いで自転車に乗っていたこと、世間知らずで、滑稽な姿からは学園長など想像もしていなくて、辞める時に発表するとはなんとかつこいい人！と親戚中が大騒ぎになりました。その後、講演会で人前で話している様子など

を写真で見ても、実はすごい人なのかも思うようになりました。それから仕事に趣味に充実した日々を送っているんだらうなと思っていた矢先のことでした。

三年前にすい臓がんが見つかりました。私たち姪っ子は子どものいない眞理ちゃんを支えたと決心しました。癌を小さくして手術がしたい。その一心で頼れる人、物に頼り、食べ物の制限もし、ありとあらゆる方法を試しました。それはこんな思いがあったからです。「私は仕事も趣味と見られていたフルートも、いつも課題をクリアすることに躍起になっていて楽しくはなかった。だから、これからは何でも思うがままに楽しみたいの。だから諦めたくないの」と。その強い意志の下、半年の余命宣告を次々と乗り越えました。ときどき出てくる弱音はいつも「悔しい…」でした。そして、一年半の努力も虚しく、治るという道は閉ざされ、眞理ちゃんと私たちの覚悟の一年半が始まりました。その間も私のいる松山に仕事で五回も来ました。来るたびに小さくなっていく眞理ちゃんでしたが、もう一度立ちたかったしみなみ海道の橋の上にも頑張つて上がりました。その時の笑顔と笑い声が今も忘れられません。

今年の二月「私が書いた本が出たよ」。二度目のかつこいい瞬間でした。「私はね、癌

になって多くの人に助けてもらった。私ができるお礼の形がこれしかなかった。」と言っていました。その後自宅でもベッドでの生活を余儀なくされ、出版祝いの会に行けないことを残念がっていました。一人で立つこともままならない中、私たちが困らないようにと、家の片づけの指示をしてくれて、自筆での遺言を書き、主を失う家の管理に至るまで書き記してくれました。

四月十九日、大切な自宅の庭の草花、部屋の写真を書し、アルバムにし、見ながら二人でゆっくり話をしました。そして、次の日、大きな枝垂桜に見送られながら自宅とお別れをしました。それから眞理ちゃんを選んだ大文字山の見える病室で食べたかったものの全部味わって、笑って、来た人それぞれに「かわいいね」「きれいね」って思わず微笑んでしまう言葉をかけてくれました。

そして、六月五日 私松山から駆け付けるのも待つて、かつての同僚の方にも見守られ、放送礼拝の讃美歌を聞き終えて、静かに息を引き取りました。亡くなった後に、辛かったこともあったと聞きました。でも、良き保育者を育てるという強い意志を貫き通した叔母に敬意を表し、「こどもの後ろを歩く、丁寧な暮らしの中に丁寧な保育がある」そんな保育を実践していきます。

二〇二五年 夏の講習会（7月26日～27日） 「モンテッソーリ教育と平和の実現」

日本モンテッソーリ協会名誉会長 前之園 幸一郎

モンテッソーリは平和という問題を今から九十年前、本当に深刻に考えました。こんなにも人々はお互いを憎しみ合っていたのだらうかと。そして、そのために軍備を蓄えております。よその国よりも一歩でも精度の良い軍備を整えようという軍備の拡充に奔走している。これを見てモンテッソーリは言うんですね。いくら軍備を整えても、平和なんてやってこない。むしろますますエスカレートするだけだと。九十年前に言われたことが今日そのままではまっていますよね。今のロシアのウクライナに対する様子を見ていまでも、何にもしない市民たちのところに爆弾が落ちてくるという、そういう痛ましい現実があります。そういうことで改めて平和という問題、しかもモンテッソーリ教育を通しての平和についてを考えてみたいと思います。

今日お話ししたいのは、次の項目です。

一、教育とは平和のための武器であるという主張について。

二、平和のための教育

三、「忘れられた市民」としての子ども

四、「よりよき人間」・「新しい子ども」の形成

五、超自然のなかの子どもと「平和」

一、教育とは平和のための武器である

それでは、『教育とは平和のための武器である』というモンテッソーリの考え方を見ていきましょう。これは有名な言葉です。モンテッソーリの言葉でよく知られている言葉。L'educazione è l'arma della pace. 「レドゥカツイオーネエラルマデッラ パーチェ」ラルマというのは武器。パーチェは平和です。武器をいくら揃えても平和はやってきません。その武器に代わるものとして教育を我々は整えなければいけない。ところがモンテッソーリに言わせると、今日の教育の現状を見るとですね、武器が発達したスピードに比べると、今の私たちが行っている教育は、まだ「弓と矢の段階」にある。科学技術だけ一方的に進みすぎて、教育の側面に目を向けると、いっぱい課題が残されている。そういうことをモンテッソーリは指摘するんです。モンテッソーリ教育そのものが平和ということ

をみなす教育であるということを私たちは考えて、これから教育に臨まなければいけないという、そういうことを言っております。

こういう点が間違っているのか。今日の教育が誤っているのはどういうことかという、これは「競争だ」っていうんですね。競争の原理で教育が行われている。今若干、考え方も新しくなりつつあるかもしれませんが、けれど、現実的には競争です。人と張り合つて、人をかき分けてでも先に進もうということ、それは何のためにかという、立身出世のためだということなんです。人よりもいい社会の中で一步でも人を掻き分けて上に立つという、そういうことが原理になって、これは昔も、今でもそうだと。受験競争を見ると分かりますよね。未だに熾烈な受験競争が展開していて、小学生でも塾に通わなければ親は落ち着いておられないという状況です。そういうものが教育の一番根本的な過ちであるという。

つまりそれはどうしてかという、私たちは大きな力に支配されて、自分で考えるんじゃない、私たちを覆っている社会的な抑圧があつてですね、その抑圧に命令されているロボットみたいにして勉強している。自分で勉強したいから勉強するんじゃない、自分で勉強するように仕向けられている。しかもその勉強というのが、モンテッソーリが考えて

いる勉強と違う勉強。頭だけを訓練して、特訓して、知的な能力を人より抜きん出た状態で維持し、それをさらに推し進めるという考え方に立っているというわけです。

じゃあ何がどうすればいいのかというと、『人間の心の世界に目を向ける必要がある』って言うんです。私たちは体だけで、肉体だけで生きているわけではありません。これは平和と関係ありませんけれども、モンテッソーリがかつて言った言葉の中で、人はパンのみに生きるにあらずと。胃袋が満ちていたら、それで満足だということわけにはいかないんだって、聖書の言葉を引いてですね、私たちは、心の飢え、私たちの心も飢えてしまつて、栄養失調になつてゐることはないだろうか。体は、飢えてしまつて栄養失調になると、身体的にいろんな故障が出てまいります。心もやっぱり栄養失調になるということはあり得る。心が貧しくなるとどうなるか。これは胃袋が、食べ物欲しがると同じように、心だつて食べ物欲している。それは何だろうかと思つて、それは三つ言いました。まず一つは、ヴェリタ(Veritas)って言いました。ヴェリタ(Veritas)っていうのは真実。子どもだから本当のことを知らないでもいいっていうわけにはいかない。子どもの心が満たされるためには、本当の真実を、子どもを知る、そういう必要がある。

それから二つ目に美しさが必要だと。つまり、綺麗なものの、心が和むものの、それから美しいものの、そういうものを見たり聞いたり、体験したり、あるいは触ったり、そういうことをして心の飢えは満たされると。

そして、その次にクオーレ(cuore)ということを言います。クオーレ(cuore)っていうのは愛、ハートと意味です。優しい言葉がけ、あるいは優しい取り扱いとか、優しく受け答えしてもらうこと。あるいはあの優しい眼差しで見守ってもらうこと。そういうことがなければ、肉体だけが、胃袋だけが満足したまともな人間になることはありえない。心も十分に栄養不足にならないように満たして教育っていうのは行わなければならないのにもかかわらず、今の私たちはどうでしょう？というわけです。

結局、知的な競争で、人を蹴落としてでも上に立つということになるとですね、競争の原理っていうのは、孤立する人々を孤立させる。お互いに手を取り合つて、総合的にお互いを助け合つてというような関係が全然そこには見られない。そういう競争原理の教育が一番今日人々を不幸にしているんだとモンテッソーリは考えたんです。

*この続きは来年発行の「自由を子どもに」に掲載予定です。

「なぜ『自由を子どもに』なのか？」

『教育の本質から考える』

熊本大学教育学部准教授 吉野 一徳

教育については、私は高校の時、いえ小学校の低学年ぐらいから「教育ってなんだ？」ってずっと自分の頭で考えていたけれども、実は二五〇〇年以上に及ぶ、いや、二五〇〇年どころじゃありません。教育というのは人類の誕生と共にありますから、三十〜四十万年の歴史を持つているわけですね。三十〜四十万年人類がずっと教育について考えてきた。このずっと教育について考えてきた、その先端をいつていた人たちの思想に初めて触れた時に、自分の頭だけで考えていたのとは全然違う世界が広がっていた。こんなにも深く、深く、教育って考えられていたのかということを知って目が開かれたんですよ。それからまあ、食るようにプラトンを読みました。アリストテレスを読みました。前之園先生はピノキオの教育思想っていうのもお書きですよ。そういったものもたくさん学ばせていただきました。そして、モンテッソーリに出会わせていただいたんですね。私のモンテッソーリとの出会いは前之園

幸一郎先生だったんです。

「愛」っていう本を書いているのですが、例えばですね、愛とは何なのか答えられますかって言われた時に、「愛とはこうである」って一番本質をついた言葉にするのってとても難しいですよ。これを言葉にして、「なるほど、それは言えてる」って言葉にするのが哲学です。愛が何か分かれれば、じゃあどうすれば豊かな愛を生きることができるか原理的に考えていけるようになるんですね。逆に言うと、愛とは何かが分からなければ、何をどう考えていけばいいか分からないので、道に迷ってしまうんですね。

例えば、「自由はいかに可能か」という本を書いておりますが、これはまさに「自由とは何か」なんです。「なぜ『自由を子どもに』のなか」っていうことに通ずる「自由とは何か」なんです。あるいは「良い社会とは何か」っていう問いに答えた本でもあります。この問いに答えないと、じゃあどういう風に私たちは社会をつくっていけばいいのかが分からないし、自由って何かが分からなければ、じゃあ自由な教育って何、自由になるための教育って何、子どもに自由をつてどういうこと？答えられないですよ。とことん本質を考え、それを言葉にする。これが哲学の命で、

そのための考え方を二五〇〇年にわたって積み上げてきたのが実は哲学です。

教育学者としては、まさに哲学的に「そもそも教育とは何か」「良い教育とは何か」これに答え抜くということを大事にしてみました。これもちゃんと言葉にして答え抜けないと、教育の世界というのはもうみんな主義主張とか信念とか、ほとんど趣味の次元でいつも戦い合っている世界ですね。いつも好き嫌いで語られるのです。みんな教育の経験を持っていきますから。教育を受けた経験がありますから、言いたいことはいくらでもあるんです。でも、これをみんな好き嫌いで語っちゃう。でも、好き嫌いで語っていたら、やっぱり教育をみんなでより良いものにしていくことなんてできないんですね。そういう時に、「そもそも何のための教育か」ということをちゃんと考え抜いて、言葉にできるということ。これがやっぱりすごく大事で、私はそのことを大きな仕事のひとつと考えてやってきました。その上でじゃあどうやってたらそんな教育つくれるのかなっていうことを、まあ様々な著作などで提示して、今はすごく多くの先生方と、学校づくりであったり、授業づくりであったり、カリキュラムづくりであったり、この後ちよっとお話ししますが、けれども、たくさんの方の自治体の皆さんと新し

い教育のあり方を模索して一緒に学校づくりをするということを一緒にしています。

モンテッソーリ教育は私にとっても原点の一つでして、モンテッソーリ教育にはこれからどういう教育をしていくかという、そのための知恵が、そしてアートの詰まっているんですね。たくさんその知恵を学ばせていただいて、今の学校教育界に、どんなその知恵を送っていったらいいか、私たち学ばせていただきたいと心の底から思っています。今日はそういったですね、交流の場にも是非させていただきたいなって思っています。これから教育をどうしていくかということは、この後、たっぷりお話ししたいと思います。

私は、モンテッソーリ教育は決して専門ではないんですけど、先ほど申し上げたように、まあ大好きなんです。前之園先生から学んで以来ずっと親しんできて、モンテッソーリメソッドもたくさん学び、その本も翻訳だと多分モンテッソーリ法っていう古い本を大学院時代に仲間たちと精読して議論するというようなこともやってですね。そしてまあ国内外、様々な実践の方を見に行かせていただいて、いつも学ばせていただいています。昔、西日本新聞に連載をしていた時がありまし

て、そこでモンテッソーリのことを書かせていただいたことがあったり、ボイシーっていうラジオみたいなのがあるんですけど、こちらでモンテッソーリについても熱く語らせていただいたこともあったりします。

今日は私の（哲学の）専門的な観点からなげ「自由を子どもに」なのかっていうことを一緒に考えていけたらなって思っています。大きく三つの話をしたいと思っています。

そもそもやっぱり教育って何のためにあるのか、これ答えられないと私はさっき言った通り、いつまでも教育って混乱が続くと思っていますので、これにまずは哲学的に答えを置くということをお話したいと思っています。そして本題ですね。なぜ「自由を子どもに」なのか。前之園先生のお話で、子ども観の話がありましたけれども、やっぱり本質的な子ども観、改めて皆さんと共有したいなって思っております。そして、これからの教育はどんな風になっていくのか。今百五十年ぶりに大きく教育が変わろうとしています。それはどんなものかということ一緒に見ていきたいと思います。

*この続きは来年発行の「自由を子どもに」に掲載予定です。

京都モンテッソーリ教師養成コース 二〇二五年モンテッソーリ教育

夏期講習会報告

講習会終了後、参加者の皆さんからたくさん感想を頂きましたので、一部紹介させていただきます。

〈全体会〉

（前之園幸一郎先生の講演）

・私たちがしている教育が、人格形成に繋がっている、それがこれからの世界平和に繋がっていくという大きな規模のお話を聞かせていただき、私たちの役割の大きさを改めて感じました。

・私たちが関わっている子どもたちがこれからの世界を作っていく存在だということをもう一度認識し、子どもの育ちを助けることがこれからの世界や社会をより良いものにしていくことに繋がるということを思いながら保育していきたいと思っています。

・子どもは弱々しく無防備な存在ではない。子どもは生まれながらにして人間を作っている存在である。それを支えるのが教師、大人の仕事である。というお話の中で、私たちが出来ることは何か、改めて重要な仕事をさ

せて頂いていると感じました。

- ・私にできることは、日々子どもたちと笑顔で過ごし、一人ひとりの存在を大切にしながら丁寧に関わっていくことだと思います。子どもたちから学び、共に歩んでいけるよう努めてまいります。

〔苦野一徳先生の講演〕

- ・私たちの今の教育の在り方を考え直すきっかけになりました。子どもにとって自由の大切さやモンテッソーリが子どもに与えている素晴らしい教育について深く学ばせていただきました。

- ・子どもたちが自由に生きるために、自分のやっている保育で子どもの生きる力が育まれているのか、安心してチャレンジできる、失敗できる環境になっているのかなど、しっかり見つめながらこれからも子どもと関わっていききたいと思います。

- ・教育の歴史の様なものを分かりやすく教えて下さり、楽しく聴講出来ました。そして、現代の教育の在り方、問題点もわかりました。ここでも、モンテッソーリ教育の素晴らしさを感じ、我々が子の教育に携わっている事を誇らしく思いました。

- ・平和や自由を実現するためには、互いを尊重し、対話を重ねることが欠かせません。それこそが、「自由に生きるために」必要不可

欠なことだと強く思いました。この姿勢は、子どもも大人も、人種や立場に関係なく共通して大切にすべきものであり、世界が平和に向かうための最も根本的で大切なことではないかと感じました。とても貴重なお話をありがとうございました。

〔実践報告〕

〔自然と食のお仕事でつながる家庭支援 こひつじ保育園〕

- ・保護者の方を巻き込んだの子どもと楽しく食育活動、親子活動は素敵だと思いました。循環活動、小さな頃から伝えていくことは大切だと思いました。

- ・自分が愛されてきたというその蓄積が、前に進める一步になるということを今の若い人たちに与えてあげたいと感じました。

- ・一・二歳児の生活について、とても詳しく教えていただきありがとうございます。一歳児でもたくさん活動ができること、日常のいろいろなことがお仕事になることを学びました。先生のおっしゃっていた、日常のなかの宝を探すこと、今をより良い環境にすること、暮らしをシンプルにすること、どれも大変其感できます。

- ・最後に仰っていた、「助けて」と言える事が本当の自立（手伝って下さいと言える子どもにする）というお言葉を聞き、園にいる子

どもたちや我が子に伝えることが、保育者としても親としても大切な役割なのだなと感じました。

〔二年を通して楽しい工作の実践 亀田平和の園保育園〕

- ・先生方の考え抜かれた工作、環境、様々なことを教えていただき本当に本当に幸せでした。子どもに寄り添った環境設定の中で、どうすれば一人で出来るか、「やりたい」と思えるようにするにはどうすればよいか、私も考え続けていきたいと思っています。

- ・一年を通して、子どもたちのためにすぐ考えて工作をしているのだと思いました。子どもがどこに悩んでいるのか、どこが難しいのかをよく見ていて、すぐに改善するところや難しいポイントも子どもにどう伝えるのかを詳しく聞くことができました。

〔子どもが自ら育つ環境を考える〕

- ・大人が決めたルールを歩かせるのではなく、自分で選択できる自由な環境が、大人になつたときにしっかり自分で歩んでいけるのだと思いました。改めてモンテッソーリ教育の良さを感じることができ、とても有意義な時間でした。

- ・改めて子どもたちとの関わり方、普段の保育の見直しなどを考えさせられる講義でし

た。気づかないうちに大人中心の保育になっているのではないか、子どものやりたいことをさせてあげられているのかとても考えさせられました。改めて自分の保育を見直し、良い保育ができるよう考えたいと思いました。

・子どもへの環境の大切さを改めて感じることでできました。物の環境だけでなく、私たちの関わり方ひとつでも子どもが変われるきっかけになるのだと思うと、本当に素敵な職業だと思います。これからも時々子どもにとっての自由を思い出しながら考えながら保育を行っていかれたらと思います。

(モンテッソーリ宗教教育)

・心が豊かであれば、それは自然と周りの人たちへ伝染していく、広がっていくと感じました。

・子どもの心に種をまく、それが開くのは何時になるかわからない。開くのは自分が決めていくこと。自分が愛されたら周りの人にもあげたくなる、園の子どもたちも沢山愛を受け取り、周りの人にも与えられる人になってほしいと思いました。ありがとうございました。

ワークシヨップ

・実践を交え、大事なところを限られた時間で進めて下さり、とても勉強になりました。今日の学んだことを所属で、情報交換し保育に活かしたいです。(生活)

・具体的な教具のお話や、深草こどもの家のお話が聞けて、モンテッソーリを身近なものとして感じることでできて、よかったです。

・先生方が自園の様子もお話してくださり、基本はありつつ、子どもに合わせて行うことの大切さを勉強できました。(生活)

・改めて数の世界の始まり、銀行屋さんまでにどんな数の紹介を段階追って経験してきたかということを系統立てて再確認できたことが有難かったです。(数)

・銀行遊びでのわり算やかけ算の楽しさを感じることができ、子どもたちと一緒にやってみたいなと思いました。また、数教育の前段階として感覚や生活のおしごとでも大事にしていきたいと改めて学ぶことができました。(数)

訃報

友井桂子先生を偲んで



令和七年九月三日
友井桂子先生（高田カトリック幼稚園前園長）が、ご逝去されました。

友井桂子先生の優しい温かいお人柄が忘れられません。心からお悔やみ申し上げます。

友井桂子先生は、コーススタッフとして、二〇一一年から十四年間、数教育の講師として、基礎コース、専門コースに携わっており、いつも子ども主体に考え、謙虚な姿勢を持ち、常に学び続けられていた先生でした。これからもずっと、コースを見守っていただくことと信じております。

京都コース主任 渡辺 政美

友井桂子先生を偲んで

高田カトリック幼稚園 園長

中村 典子

園長先生の突然の訃報に、いまだに信じられない気持ちでいっぱいです。優しく、そして時にお茶目な園長先生の笑顔が、ふとした瞬間に思い出しては、胸がぎゅっと締めつけられます。仕事では厳しい場面もある中、いつも私たちに寄り添い、私たちが、どんな失敗をしても否定せずあたたかく見守ってくださいました。そして、人を見る時は表側からだけでなくその人の裏側まで見なさいと、人をとことんまで理解することの大切さを教えてくださいました。子どもたちに対

してはいつも謙遜で、丁寧な接しておられました。私たちはその背中を見て、色々なことを学ばせていただきました。

忙しい合間にふいに見せてくれるユーモアや、さりげない気遣いに、どれほど救われたかわかりません。ときにはお姉さんのように、友人のように接してくださった園長先生でした。ムーミンに出てくるニョロニョロとバームクーヘンが何よりも大好きだった園長先生、私たちはそんな園長先生が大好きです。

あの穏やかな声、何気ない雑談、優しい笑顔、園長先生と過ごした楽しかった日々はこれからもずっと、私たちの心の中に残り続けます。園長先生はいつも私たち「私の元気な姿を覚えていてね」とおっしゃっていました。だから私たちの心の中では、園長先生の優しい笑顔の姿を残したいと思います。

園長先生が大切にされてきたことを心に刻み、子どもたちに対しては、謙遜で、また良き援助者として、一人ひとりの子どもを愛し、一人ひとりを大切に思い、そして丁寧に間を空けることをこれからも忘れずに励みたいと思います。

園長先生、本当にありがとうございました。



朝夕少しづつ秋の気配が感じられるようになった今日この頃。」皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、夏に開催されました「自由を子どもに」では一年ぶりに皆様にお会いできましたことを大変嬉しく思っております。またその際、たくさんの方々にわかば会の入会・更新手続きをしていただきましたことに心より感謝申し上げます。研修会後に行われましたわかば会総会では、わかば会の資金現状についての報告と新たな提案を以下の通りさせていただきます。

わかば会は皆様の会費で成り立っている会であり、会費千五百円を納入していただいて会員になっていただきます。現在、その会員特典として、冊子「自由を子どもに」（千五百円）を発刊年に差し上げることと、コースの夏の研修費を二日で二千円引きにさせていただいております。従って会費収入より、支出が大き

く上回るようになります。これまでは歴代の会長さんが貯蓄財源を使いながらやりくりしていただいておりますが、現在非常に厳しい状況です。そこで、歴史あるこのわかば会をなんとか継続していくためにも、大変心苦しいのですが、これまでの会員特典であります研修費割引を来年度より廃止させていただきます、新たな特典としまして、発足時の当会の目的であります「卒業後もコースの仲間たちと互いに学びあい、育ちあえる会」として充実させていく方向で考えていきたいことを、提案し、参加されていた皆様に図らせていただきました。結果、ご賛同いただけましたことに心より感謝申し上げます。合わせて、当日、皆様に新たなどのような特典を希望されるのかのアンケートをとらせていただき、たくさんのご意見を頂戴しました。今後そのご意見を参考に熟慮しながら検討し、今年度中にその内容を決定し、次回のわかば会だよりにてご報告させていただきます。

来年度は日本モンテッソーリ協会の全国大会が京都の地で行われる為、京都コースの研修会はお休みされたいとお聞きして

おります。従って、研修会でのわかば会入会手続きができませんので、次回のわかば会日より振り込み用紙を同封させていただきますので、お手数をおかけしますがよろしくお願いいたします。

今年は、私共の師や、お仲間との別れが続き、言葉にならない悲しさと寂しさに包まれています。師の教えや在りし日の様々な思い出は、皆様のなかですつと生き続けられることでしょう。

わかば会 会長 ロザリオ学園 海の星幼稚園

園長 上田 礼子

【会費納入について】

◎振込先

02 東京 00150-9-82053

京都モンテッソーリ教師養成コースわかば会

◎年会費

1,500円

※長期滞納の方は再入会金 1,000円と
2024年、2025年の2年分 3,000円
計4,000円をご送金ください。

◎問い合わせ先

わかば会 上田 礼子(海の星幼稚園)

〒791-8076 愛媛県松山市会津町6-1

TEL:089-951-1717

FAX:089-952-5766

メール:uminohoshiencho@blue.ocn.ne.jp

訃報

(滋賀カトリック学園 聖母こども園)

井上美幸園長先生を偲んで



八月十五日聖母被昇天の祝日、前わかば会会長井上美幸園長先生が、神様のもとに帰られました。

突然のお別れに何が起ったのか解らず、言葉を失くし呆然としたあの日のことを思い出すと、今もまだ胸が締め付けられる思いがします。

井上園長先生とは二十歳の頃から同じ京都のモンテッソーリ園でお仕事させていただき結婚・出産も同時期だったので仕事や育ての悩みを分かち合える仲間として共に過ごしました。そして二度目の仲間として一緒にすることになったのが滋賀カトリック学園です。それがやがて園長という立場でお世話になるとは最初とは思いませんでした。慣れない園長職、その重責に押しつぶされそうになった時、井上園長先生は親切にアドバイスを

を下さいました。その言葉、姿が今も私のお手本です。決して追いつくことの出来ない永遠のお手本です。

聖母こども園新園舎建築にはその心血を注がれ、いつもスケールを持ち歩き、どの部屋からも中庭のマリア様が見えるように計算されたと伺っています。大切な子どもたち先生たちのために、こまめにご自身の全てを注がれたその姿は、私達の恩師である相良敦子先生と重なりま

す。きつと今頃、天国で一緒に笑っておられるでしょう。井上園長先生は私達の心の中に、聖母こども園の園舎の中にもおられると思います。どうかこれからも道しるべとして、私たちを導き続けてください、聖母マリア様のように。

園長 松井 環



学校法人化プロジェクト進捗状況のご報告

京都モンテッソーリ教師養成コース・深草こどもの家 学校法人設立準備会
長谷川 美枝子

【学校法人化プロジェクト寄付状況のご報告と感謝】

京都モンテッソーリ教師養成コースと附属園 深草こどもの家は学校法人化を目指しプロジェクトを始めてから四年が経過しました。本年6月1日から7月31日までの間、日本最大級のクラウドファンディングサイト CAMPFIRE にて挑戦を行い、多くの応援や励ましの声をいただきました。この期間中、CAMPFIRE 以外からも多数のご寄付を賜りました。2021年のプロジェクト開始以来、883人の方々からのご支援を賜り、

2025年9月末日現在、寄付総額は **63,357,793 円** になりました。

私たちの挑戦にここまで多くのご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

単なる金額の多寡ではなく、京都モンテッソーリ教師養成コースで学び現場で活躍されている卒業生の方々、社会で力強く歩んでおられる卒園生の方々、保護者の皆さま方、それぞれが「原点への敬意」と「未来への責任」を胸に、理念へ共感を寄せてくださった証であり、さらに、モンテッソーリ教育関係者の方々から、京都コースと深草こどもの家の実践が高く評価された結果でもあります。五十年にわたり「本物の教育」を守り伝えてこられた赤羽恵子先生、故岡山眞理子先生の情熱と丁寧な積み重ねにより築かれた信頼と実績、その重みを改めて感じています。

私たちはこの社会的信頼と大きな期待を背景に、京都府・京都市と引き続き協議を続けてまいります。

【ご寄付の使い道と進捗状況】

▼クラウドファンディングリターンの準備と発送

→順次ご用意し、一部発送完了しました。

▼新園舎の建築資金：モンテッソーリ教育の理念に沿った環境づくりの実現

▼学校法人化の準備経費：設計費、認可申請費、安全基準対応工事

教育に高い関心をお持ちで、海外の教育施設の建築にも見識をお持ちの建築士をご紹介いただきました。その方は、すでにモンテッソーリ教育施設の設計・建築の経験を有しており、現在、私たちはその建築士の方と相談を重ねております。

▼京都コース、教材販売事業再構築

現在、学校法人化プロジェクトの事務局長・杉山史哲を中心に、教材開発の見直しやオンライン化、販売促進体制の再構築を進めています。寄付だけに頼らず、事業そのものを拡大・強化し、法人として安定した収益基盤を築くことで、より大きな融資を受けられる体制を整え、最終的には学校法人化のための資金を自ら生み出せるよう準備を進めています。

【私たちの決意】

皆様からいただいたご支援は、私たちにとって「未来への約束」です。

園舎建設予定地には傾斜地も含まれるため、まず擁壁を築く必要があり、寄付目標額には未だ到達しておりません。しかし、引き続き支援者を募り、あらゆる手立てを尽くして、必ずや園舎を完成させ、正式な学校法人として認可を受け、自由で豊かな学びを次の世代へとつないでまいります。

京都モンテッソーリ教師養成コースと附属園深草こどもの家はこれからも、こどもが自分で考え、自分を育てることのできる環境を守り、自由な学び、互いに尊重し合う社会の基礎を育む教育、真のモンテッソーリ教育実践を貫いてまいります。

皆さまからいただいた温かい想いに応えるため、一步一步を確実に、そして全力で歩み続けます。どうか引き続き、この挑戦を見守りお支えください。

現在も『京都地域創造基金』にて寄付を受け付けております。共感と応援の輪がさらに広がっていくことを切に願っております。

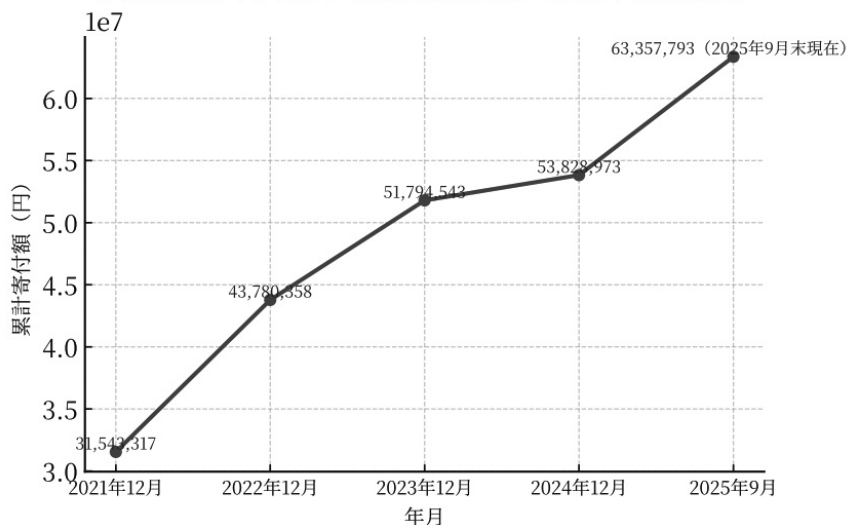
公益財団法人 京都地域創造基金
自然豊かな本格的モンテッソーリ教育実践園の学校法人化プロジェクト



深草こどもの家 学校法人化プロジェクトタイムライン (2019～2025)

2019年	学校法人化向け、京都府との協議を開始
2020年	コロナ禍 園舎立て直しが必要であることが判明 学校法人化プロジェクト準備開始（資金計画・体制づくり）
2021年	コロナ禍 オンライン映画上映会を3回開催（実践記録映画「深草こどもの家の一年」 夏：寄付募集開始（京都地域創造基金） 12月：累計寄付額 31,543,317円
2022年	6月：山科区勤修寺の仮園舎へ移転。園舎建築の必要性が具体化する。 7月：日本モンテッソーリ協会（学会）にてオンラインワークショップ開催 12月：累計寄付額 43,780,358円
2023年	6月：学校法人化応援企画オンライン zoom イベント開催（協力：田中昌子さん、あべようこさん） 7月：京都コース創立50周年記念夏の講習会開催（延べ400人以上参加） ドイツのモンテッソーリ教育界より、ドイツモンテッソーリ教育財団を通じて10,000ユーロの寄付が届く 11月：京都コース50周年記念オンライン特別講演会（協力：ドイツ・モンテッソーリ協会） 12月：累計寄付額 51,794,543円 12月末：杉山史哲さん（生駒市教育委員会教育政策室）が学校法人化プロジェクト事務局長に就任
2024年	3月：苫野一徳先生（熊本大学准教授）が来園・保育見学。プロジェクト応援を表明してくださる。 7月：京都コース主催夏の講習会開催（延べ400人以上が参加） 秋～：学校法人化プロジェクトPR動画制作開始 12月：累計寄付額 53,828,973円
2025年	6月：CAMPFIREクラウドファンディング実施 7月：京都コース主催 夏の講習会開催（延べ400人以上が参加） 8月：累計寄付額 62,822,973円 9月末日までのご寄付総額 63,357,793円

学校法人化プロジェクト 寄付累計額の推移（2025年9月末現在）





大会事務局
認定こども園
奈良カトリック
幼稚園

☎ 0742-22-4089
FAX 0742-26-3261
✉ info@nara-catholic-youchien.jp

第58回 全国大会 in 京都

2026年8月1日(土)～3日(月)

いのちの輝き

～育ちあうこども・大人・社会～

会場：ホテルオークラ京都

日本モンテッソーリ協会 (学会)

8/1

基調講演
今森 光彦
写真家 切り絵作家
環境農家 ガーデナー
里山環境プロデューサー

特別講演
森口 祐介
京都大学 大学院
文学研究科教授

8/2

基礎講座
前之園 幸一郎
日本モンテッソーリ協会 (学会) 名誉会長
青山学院女子短期大学名誉教授

応用講座
若野 一徳
熊本大学教育学部准教授

応用講座
遠藤 愛
高野寺幼稚園のガーデナー
モンテッソーリ教師

自主シンポジウム
佐々木 信一郎
日本モンテッソーリ協会 (学会) 会長

8/3

シンポジウム
テーマ：いのちの輝き
～育ちあうこども・大人・社会～
コーディネーター：阿部真美子
シンポジスト
田嶋久子 (こひつじ保育園/大阪)
根岸美奈子 (深草こどもの家/京都)
勝間田万喜 (富坂こどもの家/東京)
安倍陽子 (あきる野モンテッソーリ
スクール/東京)

来年は、京都コース主催の
夏の講習会はありません。
全国大会 (京都) で会いしましょう!

ワークショップ
京都モンテッソーリ教師養成コース
会場：京都カトリック幼稚園

子どもの家集団

京都コースで研究開発された教材販売部

子どもにそなわっている
「自立する心」を大切に
モンテッソーリ教育の理念に
開発された教具教材です。

時の概念を伝えるオリジナル出席カード



赤羽恵子考案

今日は昨日の次、今日の次は明日…
毎日1枚シールを貼って、一か月、一年の長さを体感できる
京都コースだけのオリジナル。モンテッソーリカレンダー

美しい日本語のために

- 「あいうえお」の歌 (歌とピアノ)
- 「あいうえお」の歌 (ピアノ)
- 「あいうえお」の歌 (女性3部合唱)
- 月・日・曜日の歌 (歌とピアノ)
- 月・日・曜日の歌 (ピアノ)
- 線上歩行のために I (ピアノ)
- 線上歩行のために II (ピアノ)
- 線上歩行のために III (フルートとピアノ)



Apple Music

子どものための魅力的な教材が沢山!



その他

- 紙織りセット
- 幼児用織機
- 三つ編みテープ
- 幼児用包丁
- スクーター (鉛筆削り)

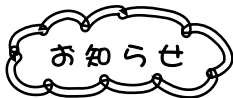
「子どもの家」集団
(京都コースで研究開発された教材の販売部)

「話ことばから書きことばへの導入」から生まれた
日本で唯一の系統的な日本語の教材

*価格改定しました

注文先: 発送部 〒612-0838 京都市伏見区深草神明講谷町2-4 FAX 075-645-4181
研究部 〒607-8218 京都市山科区勤修寺町内町64-3 TEL 075-641-8410





○編入試験

各地方会場での基礎コースを修了された方を対象に、専門コース2年次への編入試験を下記の通り行います。

日時：2026年2月28日(土) 9:00～16:00

※受験者の人数によって、終了時刻は変わります。

※切日以降にお問い合わせ下さい。

場所：京都 深草こどもの家 勸修寺園舎

申込締め切り：2026年2月2日(月)まで

※申込書は事務局までご請求下さい。

○2026年度募集要項

京都モンテッソーリ教師養成コースの2026年度募集要項ができました。

お知り合いの方々にご紹介下さい。

また、宛先をお知らせいただければ直接郵送いたします。ホームページでもお知らせしています。

- ・ 専門コース
- ・ 基礎コース
- ・ 管理者コース

聴講のお誘い

(1) 京都コース卒業生の皆様

基礎コース・専門コースの授業をもう一度受けてみませんか?卒業されてから間もない方、何十年も経った方、どなたでも歓迎します。新たな発見や学びがたくさんあると思います。聴講料は、1日3,000円です。JAM 及び AMI のディプロマをお持ちの方も、1日5,000円で聴講できます。

(2) はじめての方へ

基礎コースの他、専門コースの授業も聴講することができます。ただし、(生活・感覚・言語・数)教育の授業のうち専門1年目のそれぞれ第1回目の授業に限ります。基礎コースの会場では第I課程のみになります。聴講料は1日10,000円です。

※聴講ご希望の方は事前に京都コース事務局まで、電話またはFAXでお申し込み下さい。

■2026年度 基礎コース日程表 (在籍者は、下記のどの会場でも何回でも受講できます。)

会場 内容	福 岡	会場 内容	東 京	会場 内容	札 幌
生活教育 I	4月 18日・19日	言語教育 I	4月 18日・19日	生活教育 I	8月 5日・ 6日
感覚教育 I	5月 16日・17日	生活教育 I	5月 16日・17日	感覚教育 I	8月 7日・ 8日
数 教 育 I	6月 20日・21日	感覚教育 I	6月 20日・21日	言語教育 I	8月 9日・10日
言語教育 I	7月 4日・ 5日	数 教 育 I	7月 4日・ 5日	数 教 育 I	8月 11日・12日
生活教育 II	9月 5日・ 6日	言語教育 II	9月 5日・ 6日	感覚教育 II	8月 5日・ 6日
感覚教育 II	10月 17日・18日	生活教育 II	10月 17日・18日	生活教育 II	8月 7日・ 8日
数 教 育 II	11月 7日・ 8日	感覚教育 II	11月 21日・22日	数 教 育 II	8月 9日・10日
言語教育 II	12月 5日・ 6日	数 教 育 II	12月 5日・ 6日	言語教育 II	8月 11日・12日
土曜日 14:00～18:00 日曜日 9:00～16:00 (土・日)を1回として年8回				全課程 9:00～16:00 今年は8月5日～12日です	

◎第I過程は、幼稚園教諭・保育士資格のある方はどなたでも聴講できます。

※聴講料は、1日10,000円です。(基礎コース修了者及び専門コース卒業生は、1日3,000円です。)

※聴講希望者は、事前に京都コース事務局まで電話またはFAXでお申し込み下さい。